

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900087		
法人名	有限会社ケアサービス九州		
事業所名	グループホームふぁみりー那珂		
所在地	福岡市博多区那珂3丁目14番6号		
自己評価作成日	令和2年9月14日	評価結果確定日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年10月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

H27年より小学4年生を対象に子供向けの認知症サポーター養成講座、福祉体験の受け入れや、特別支援学級との交流の場を設けています。自治会への参加、公民館主催のなかよし喫茶等にも参加し、苑では月に1度ケアカフェを開催し地域の方や包括センターの方をお招きし地域交流にも力を入れています。これまで5回開催しました、「認知症の方も安心して暮らせる町作り」の一環として、行政の方・自治会の方と共に、認知症SOS徘徊模擬訓練を実施し、一緒に認知症サポーター養成講座を行い、オレンジリングを広げる事も出来ました。社会福祉協議会よりご紹介の傾聴・折り紙ボランティアの方に来て頂き、入居者様と交流を持って頂いています。4年前より犬を飼い入居者様と一緒に散歩をし、町内のパトロールをしています。アニマルセラピーで入居者様も役割が出来たり、心が癒されています。働き方として子連れ出勤を取り入れたり、研修の充実に加え、OJTやOFF-JTを効果的に活用し職員の育成に積極的に取り組んでいます。今年3月よりコロナ感染拡大予防の為中止に致しました行事などは、コロナ感染拡大が落ち着きましたら、これまで同様実施していく予定です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふぁみりー那珂」は、区内を縦に走る筑紫通から一本入った住宅街の一角にある2ユニット型グループホームである。近隣には小学校、公民館もある立地環境で、系列の小規模多機能施設と併設されている。運営法人は市内および県内で他3か所のグループホームも運営しており、当施設は開設10年を超えたところである。現在はコロナ禍で控えているが、H27年から地域との交流に精力的に取り組んでおり、最近では役所とも協力して地域ネットワーク構築を新たに行った。地域を巻き込んだ高齢者支援の取り組みが徐々に広まっており、よい関係を築いて地域からも頼られる存在になっている。代表が中心となって行政や地域との連携に積極的に関わっており、今後も地域福祉を支える存在として益々の発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月初めのミーティングの際に参加者全員で基本理念の唱和を行っている。また、その時々状況に応じて理念の見直しを行い利用者様・ご家族に安心・満足・信頼を得る様に職員一同努めています。	法人で共通の基本理念と運営方針があり、各施設の事務所内に掲示している。理念にある考え方について、会議や申し送りの際に各フロアのリーダーや管理者から職員に対して伝達、指導を行っている。新任の入職時には研修を行い、その際にも理念についての伝達がなされている。利用者へのケアの考え方についても理念に基づいた提案が出来てきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルスの影響により自粛しているが、地域のイベントや公民館で行われている麻雀教室・体操教室などに参加し地域の方々との交流の機会を増やしている。又公民館主催のなかよし喫茶にも参加したり、社会福祉協議会のご紹介で、週に1度傾聴ボランティアや折り紙ボランティアさんに訪問して頂いている。	町会にも加入しており、ごく近隣に小学校、公民館もあり平時は定期・継続的な交流も行っている。代表が町内会での役職も受けており、運営にも関わっている。各行事には利用者が主となって参加し、送迎などで支援している。隣接小規模多機能がケアカフェを毎月開催し、介護相談も受けている。認知症サポーター活動も代表が講師として運営に携わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政・自治会の方と共に認知症SOS徘徊模擬訓練を実施し、認知症の方も安心して暮らせる町づくりに努めている。認知症サポーター養成講座・小学校に行き子供向けの講座を行いオレンジリングを広げる活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二か月に一回のペースで開き、入居者様、そのご家族、社協、包括センター、自治会長、公民館長、市の職員・関係業者の方に声掛けし、参加していただいている。毎回身体拘束廃止についても、ご参加者のご意見や助言をいただき、常にサービスの向上に活かしている。	従前から隣接小規模との合同で定期開催していたが、コロナ過では国の指導もあり現在は休止している。毎回その旨の案内も行っている。1月の開催が最後だったが、市や区の職員、警察など様々な所に案内を行い、頻度は異なるが実際に参加もされている。家族も全員に案内し、3、4家族は来られている。議事録は市には郵送報告し、求めがあればファイル開示できるようにしている。避難訓練と同日に開催することもある。	会議内容を知ってもらう取り組みとして、議事録の掲示、閲覧、郵送報告など、参加できない家族に対しても共有できるようにされてもよいのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市の担当の方と協力し「きんしゃい博多」を立ち上げた。その声により相談や取り組みを伝えやすくなった。連絡・連携を取り合いお互い協力関係を築けるよう努めている。	博多区内の校区単位で介護事業所と地域住民との相互連携の場である「きんしゃい博多」を代表が1、2年前に立ち上げ、区や社協の職員とも協力して運営されている。認知症サポーター養成の活動でも、市から依頼を受けて、自地域だけでなく他地域にも赴いている。代表の活動の場も広く、行政とも頼り頼られる関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて、身体拘束について意見交換を行い、入居者様に自由に、閉鎖的にならない生活が送れるよう努めている。社内勉強会、外部勉強会、毎月のミーティングでも身体拘束について勉強・話し合いを行っている。	玄関施錠は夜間のみとしており、外出要望のある利用者に対しても付き添いなどで対応し、センサーや見守りでも安全管理に努めている。万一の事故に備えて、毎年の徘徊模擬訓練の実施や、SOSネットワークの活用、タクシー会社との連携などにより地域での見守りの目を構築している。町内の方も協力的で意識も高い。研修、勉強会も定期的に行っている。身体拘束廃止委員会も組織し、毎月開催されている。	

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで勉強会を行ったり、定期的なカンファレンスを行っている。職員同士でコミュニケーションをとりながら虐待への芽がないか確認し合っている。年に1度虐待の芽チェックリストを無記名で提出してもらい、個人面談を行い職員のメンタルにも気をつけています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内勉強会や外部研修に参加し勉強する機会を得ている。 現在グループホームでは一名成年後見制度を利用している方がおり、学んだものを振り返れる機会となった。	入居前から成年後見制度を利用されている方が1名おり、外部の後見人とのやり取りがなされている。毎年定期的な内部研修が行われ、別途外部研修への参加、伝達研修も行われている。必要な方がいる際は主に代表が担当になることが多い。職員も基本的な制度理解はしている。	ご家族などへの説明用の資料やパンフレットなども複数部準備されてもよいのではないだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事の契約は代表・施設長によって契約を行い、契約時に細かく説明を行い、理解・納得をいただけるよう努めている。改定時も書面にて説明を行い、入居後も疑問点などあればその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見BOXを用意し、意見の言いやすい環境を整えている。ご家族様が来苑された際にはご要望など伺っている。来苑いただけないご家族には電話で伺うこともある。入居者様にも会話から要望を拾い上げている。普段からご家族様とコミュニケーションとり意見や要望を話しやすいように、努めている。	半数弱の家族が月1回以上の面会に来ており、その際にご意見や希望などを伺っている。それ以外の方は電話や、2か月ごとの個別だよりで、日ごろの様子をお伝えしている。今回初めて写真付きのユニット通信を発行予定である。毎年事業所での夏まつりを開催し、その際に家族会も開き4家族程度が参加し意見もうかがっている。アンケートの回収率も7割程度と高く、好意的な意見が多かった。	表に出てきづらい要望や満足度を図るアンケートなどの調査も定期的に行うことで、より理念の実現に向けた取り組みを検討されてもよいのではないだろうか。また、意見箱の記入用紙を事前に配って、来訪時に回収のみ行うことで回収率を高めてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表・施設長はミーティングに参加し、現場職員の意見や提案を出し合い、討議している。ミーティングに参加できなかった職員からも、後日意見を聞くなどしている。職員が意見や提案を話しやすい環境を整える事に努めている。	会議はパート職員を含め、原則全員参加で毎月1回行っている。意見も上げやすい雰囲気、それぞれ積極的に発言している。最近ではプライバシー配慮のための目隠しの設置や、レクの提案など細かなことでも意見され、すぐに実施にもつなげている。管理者も現場に入っていることで日ごろからも相談しやすく風通しもよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長を通し代表に個々の職員の実績や努力、勤務状況を伝え実績把握に努めている。又、半年に1度個々職員が目標を定め向上心に繋がる様に努めている。1年1回個人面談を行い、状況に応じて都度面談を行い、新人職員に関しては頻りに面談を行いモチベーションを上げる様に努め、その都度代表に報告・相談をしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の職員が働いており、活躍の場を設けている。外国の技能実習生も勤務しており、安心して働ける環境作りにも配慮している。又採用された職員は経験の有・無に問わず、それぞれの個性を活かし、これまでの社会経験が活かせる様な職場環境を作っている。現在は23歳から75歳までの職員がそれぞれの個性を活かし働いている。子連れ出勤制度も設け働きやすい環境作りに取り組んでいる。	男女比は2:8程度で、年代の幅も広いが、料理や制作などそれぞれの得意なことを生かし、協力しながら業務に取り組んでいる。海外実習生2名の勤務もあり、コミュニケーションも取りながら協力して働いている。小学生の子供を連れて勤務したり、乳児を休ませるベビーベッドがあったりと、育児と勤務の両立しやすい配慮もなされている。休憩時間や場所も銘々で確保されている。	

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者が自分らしく過ごせるよう取り組んでいる。ミーティングなどで日々の支援を振り返り、人権教育につなげた話し合いを行っている。	毎年の研修計画の中で、「倫理・法令遵守」についてのテーマのものも定期継続的に行っている。外部での管理者研修などでも人権に関する講義を受けている。虐待防止、認知症高齢者の理解についても内部研修が行われている。	外部での人権学習の講義を受けた際に、伝達研修や資料回覧によって事業所内での共有が図られることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティング時に行う勉強会を通じ、職員のケアの力量を確認しトレーニングを行っている。研修に加え、OJT・OFFJTを効果的に活用し、職員の育成に積極的に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別事業所の見学・訪問にも対応し交流を深めるよう努めている。『きんしゃい博多』を立ち上げ世話人を行い、積極的に事業所間の交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大切にし、ご本人が何を望んでおられるのか、不安がないかなどを気付けるよう職員間での周知し解決できるよう努めている。ご本人との信頼関係を築く様努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との会話を大切にし、会話の中からご家族が困っている事、要望を傾聴しご家族が相談しやすい、環境・信頼関係を築く様努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の方との会話を大切にし、ご本人の生活歴などをお聞きし、ご本人・ご家族の要望を職員間で周知しご本人・ご家族にとって良い支援ができるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ひとりひとり役割や得意なことをしていただき無理強いすることなく共に生活を築いて頂けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑できない家族には近況報告を手紙にてお知らせしたり、時々電話をかけご本人と話していただいている。		

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内や小学校の運動会に行き、顔なじみの方とお話したり、近所のお祭りに行き、昔からのお友達を尋ねお話をされ毎年楽しみにされている。時々苑のほうにお友達が訪ねて来られお話しされる。今後も関係が途切れない様に支援して参ります。	近隣からの入居者が地域のお祭りに参加したり、知人が訪ねてこられることもあった。はがきや手紙のやりとりの支援をすることもある。個別ケアで、県外にある元の職場を訪問する支援をしたり、冠婚葬祭の参列に家族と一緒にいられる方もいた。以前からの趣味や習い事の継続をすることもあり、公民館で開かれる麻雀教室、短歌の投稿など、それぞれのペースで意欲的に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライベートも大事にし、全員で外食・外出に行きます。時には気の合う仲間です少数の外食にも行ってます。将棋を入居者様同士でさしたり、入居者様同士お話をしたりしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても何かあった際は相談していただくように声掛けをしている。以前お母様が入居されていて、現在は娘様が入居されている。以前入居されていた娘様からの相談で併設している小規模多機能にお姑様が利用される様になりました。今後も相談や支援に努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の思いや意向を確認し、確認した意向はケアプランへ反映している。職員が日頃会話や表情の中で得た情報を記録に残し、情報の共有をしている。	本人に馴染みのある方言で語り掛け、意向を引き出した話しやすい関係を作っている。状態の把握のため、全員に対してセンター方式の一部を活用して聞き取りを行っており、状態が変わった際の見直しもしている。利用者ごとの担当者も定め、担当者が中心となってそれぞれの状況を管理・把握している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報についてはご本人とご家族から話を聞いて情報を収集している。入居後にも生活の中での会話や暮らしぶりから情報を得て、職員間で情報を共有するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活習慣、日々の状態変化を観察し、記録に残し定期的にカンファレンスを実施している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向も踏まえ介護計画を作成している。ご本人にとって何が重要かを職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。ご本人やご家族の希望に添える様に努めます。	担当者からの情報を聞き取って、ケアマネがプランを作成し、全体でカンファレンスして意見も徴収し、半年ごとの見直しも行う。プラン目標ごとの毎日のモニタリング表があり、職員全員に対してプランの共有や実施への取り組みを徹底している。プラン作成については外部の協力機関からの意見も取り入れ、特に今では外部に頼らないリハビリの取り組みなどにつなげている。	

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアについては、申し送りや記録にてスタッフ間で共有し、より良い支援に結びつけている。又、介護計画は入居者様の様子をスタッフ間で共有し意見交換しながら見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染予防の為、ご家族との面会を控えているが、電話やお手紙で情報を共有し入居者様との交流を大切にしている。外食も今は難しいが豪華なお弁当を頼んだり入居者様に希望を聞いたりして喜びある時間を作っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年までは地域ボランティアにより傾聴や折り紙サービスなど来所して頂いていたが、コロナ感染予防対策で現在は交流を控えている。配達して下さる地域の八百屋さんやお肉屋さんとの何気ない会話などの交流を大切にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望により、かかりつけ医を変更される方もおられ随時連携を図っている。定期的な往診以外に異変があった時は専門病院を受診し医療連携に努めている。	それぞれの希望されるかかりつけ医を継続してもらい、往診が難しい場合などは低経緯も紹介している。他科受診の際など原則的には家族に支援してもらいが、事業所の職員が介助することも多い。外部の訪問看護と連携し毎週の健康管理もなされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一回／週の訪問看護との連携、又日々の介護の中で適切な処置など、指導を受けながら対処し連携している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後に情報をお伝えし、かかりつけ医から診療情報提供書や看護サマリーなどで情報のやり取りをしている。入院後も定期的にソーシャルワーカーより状況を伺い、ご家族にも伝え意見を伺いながら早期に退院が出来る様、心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化された方については、早期に急変時対応の事前確認書をご家族に提示し同意を得ています。医師からの病状説明を行って頂き、ご家族に納得して頂ける支援を心がけています。又意思表示の出来る入居者様にはリビングウィルを記入して頂き、終末期どういった支援を望まれるかなど意見を伺っています。現在重度化されていない方についても急変時対応の事前確認書をご家族に提示し、同意書を頂いています。本来ならば対面にて同意を得たい所ですが、コロナ感染予防の為、郵送やお電話にてご家族との連携に取り組んでいます。	当初より、希望があれば看取り支援を行う方針であり、これまでも複数の方の看取りを行ってきた。入居時から支援を希望される方も多く、提携医も24時間対応しており、職員も経験を積んで、不安を与えない対応に努めている。ターミナルケアについての研修や勉強会も内外を問わず定期継続的に行っている。	

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成・勉強会(ミーティング)での職員への周知、過去の経験(対応・実践)を教え、冷静に対応・判断・実践出来る様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しマニュアルの作成、説明を行い、実践が行える様に努めている。 ※現在コロナ感染予防の為、運営推進会議を中止(延期)しており、地域への公開は出来ていない。	日中、夜間想定でそれぞれ訓練を行っており、消防署や設備会社の立ち合いもなされている。運営推進会議と同日開催することもあり、地域の方に訓練まで参加してもらっている。水、カップ麺、缶詰などの食料品の備蓄はあるが、今年の台風時の対応の反省を踏まえ、カセットコンロの準備を検討している。地域との防災連携のため連絡網の共有をしている。公民館で開催される地域の防災訓練への参加検討もあった。	地域との防災協力について、訓練の情報収集や検討をなされてもよいのではないだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の気持ちを考えて、尊敬と敬う気持ちを持って声掛けを行う様に努めている。言葉使いのみならず、表情や態度にも気を配るように努めている。	接遇やマナーについての研修や勉強会も毎年定期的に行っている。今回新たに写真付きのお便りを発行する計画にしているが、事前に写真利用の同意を得たものだけに留めるようにしている。呼びかけ方についても親しみを持ちながら失礼のないような対応に関して日ごろから職員同士で注意を払っている。	写真利用なども含めた個人情報の活用について、今後も継続的に行われることを踏まえ、書面での同意を得られてもよいのではないだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や生活の中で何を希望されているのかを察知し、出来るだけ希望に添えるよう提案し、ご本人様が意思決定して頂ける様に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の様子や体調に配慮し、出来る限り、ご本人様のペースで生活出来る様に、距離間を大切にする様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、ご本人様が望む身だしなみをして頂く。さり気ない声掛けで整容に気を配って頂ける様に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを理解し、食材や適切な量の配分に努めている。 ※現在コロナ感染予防の為、必要以上の会話や調理の手伝いは控えており、状況により下膳のみ手伝って頂いている。	各ユニットそれぞれでメニューも異なり、職員が持ち回りで調理まで行っている。品数も多く、手の込んだ食事が手供されている。食材は配達があったり、買物に利用者と一緒にいくこともある。コロナ過での状況は異なるが、職員も同じものを一緒に食べている。今までは毎月1回の外食行事を企画しており、個別での対応、嗜好調査や食べたいものの反映もなされている。	

R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者様に合った量を提供している。好きな物・嫌いな物も入居者様に合わせている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。自分で出来る方は見守り、介助が必要な方はお手伝いしている。入床前は義歯はポリドントにて洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄表を作り、声掛けをしてトイレ誘導をしている。出来る限りトイレで排泄をして頂ける様に努めている。	利用者ごとに管理する排泄チェック表が個別記録の様式の中に入れこまれており、24時間の排泄管理をしている。入院時にほぼ全介助状態だった方が、排泄介助によってほぼ自立につながった例もあり、できることには自分で取り組んでもらっている。おむつ交換の際も羞恥心に配慮して本人本位のケアを心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬に頼らない様に、牛乳やヨーグルト、野菜などで便秘予防に努めている。排便のパターンを把握しトイレ誘導をしている。水分補給なども細目に提供し便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿う様に入浴剤を入れたり、入浴中の会話などで楽しく入浴して頂ける様に努めている。『明るい時に入らない』と言われる入居者様には窓に日よけシートを貼、気分良く入浴して頂ける様に工夫しています。	週2回、午後早い時間帯の入浴を行う。ユニットごとの造りは共通で、浴室の掃除も行き届き、10年経過しても清潔に保たれている。洗い場も広めのため、シャワーキャリーや簡易浴槽などの設置で、介助にも対応している。坪庭が望めゆったりとした入浴が可能であり、夜間対応はできないが、窓を暗くすることで気分を変えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は好きな時間に、お昼寝やリビングにてウトウトされている 夜はゆっくり寝れる様に夜勤者は静かに巡視を行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方された薬を把握し、誤薬予防で名前・日付け・個数・朝・昼・夕・眠前を確認し、ダブルチェックをする様に努めている。何かあった際には医師・薬剤師へ連絡し指示を仰ぐ。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな飲み物を提供している。個人の好きな話などで気分転換を図り、洗濯物干しやたたみ・食器洗い等は、ご本人様自身で役割を決め喜びをもってして頂ける様に努めている。医師・ご家族に相談をして本人の希望を酌量して頂いている公民館であっている麻雀教室に通われている。		



R2.10自己・外部評価表(ふぁみりー那珂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、現在外出や外食を控えているが、コロナが発生する前は入居者様に外食したい場所などを聞きながら、定期的に外食していた。現在は施設近辺を短時間散歩したり一緒にごみ捨てに同行してもらい、地域の方とも挨拶などで交流を図っている	コロナ過の前では、初詣、季節の花見、毎月の外食行事などを計画しており、様々な企画を催していた。計画外でも個別の対応は臨機応変に行っており、近隣の外食や買い物なども支援している。車いすの方や意欲低下の見られる方も、同じように支援しており、本人にも喜んでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の許可を頂き、入居者様ご自分のお財布を持ち、週一回のパンの移動販売でお小遣いを所持して頂き購入してもらっている。職員と一緒に近所のスーパーで自分の食べたい物を買って自分で支払いをして頂いている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話したいと言われた際は苑より相手先に電話をかけ居室などでゆっくりお話しできる時間を作っている。又ご友人やご家族へはがきを出され交流も図られている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔快適さが保てる様、清掃を徹底し心がけている。季節感のある飾りつけやその月々の行事の写真を飾り、楽しみのある空間作りをしている。入浴では癒される入浴剤を使用し心地よい環境に配慮し、トイレも排泄臭を防ぐ為使用後のパットは新聞で包んだ上、処分している。室内の温度は職員よりも入居者様の体感に合わせて温度設定しコロナ感染予防の為、定期的に空気を入れ換え換気に努めている。歩行時や車いすでの移動時スムーズに移動が出来る様、自由に動ける空間に配慮している。	1、2Fに分かれてユニットが設置されており、造りはほぼ共通である。南向きの窓から出られるウッドデッキは隣接する小規模多機能施設とつながっており気候の良い時期などにはお互いに活用されている。リビングはダイニングテーブル2脚を並べても十分な広さがあり、利用者もソファに座ったり、それぞれの場所でゆったりと休まれている。片隅にはペットセラピーに活躍するピンシャー犬のスペースもあり、皆に可愛がられ、暖かな雰囲気づくりに一役買っている。トイレも3か所あり、内2か所は車いす用に対応し、待たずに利用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり好きなDVDをゆっくり観れる空間を作っている。気の合う仲間との会話が楽しめる様、食席は関係性を重視した配置にしている。又一人で読書をしたり塗り絵等が気持ちよく出来る空間作りにも配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参された仏壇やなじみのタンス、又その人の歴史が見れる写真を飾り安心できる環境を作っている。それぞれの入居者様の自宅とまではいなくても、私の部屋という自覚が持てる環境作りにも配慮し、入居者様同士がそれぞれの居室にお招きされ、ゆっくりお話しされている様子もよく見られる	リビングを挟んで両側に居室が配置され、配置場所で和室とフローリングに分けられている。電動介護ベッドが据え付けられるほかは家具の持ち込みは自由で、仏壇やテレビ、冷蔵庫など使い慣れたものを持ち込んでいる。8畳ほどのスペースは家具を持ち込んでも十分な広さであり、戸口上の棚なども使い、部屋もきれいに整えられていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間とトイレ、浴室には手すりを設置し自立歩行の方は、見守りをし安全かつ自立した生活が送れる様工夫している。トイレの扉には大きな文字で分かる様表示し、居室の扉にも本人の希望とご家族の許可を得て表札を付けている。		